

富士北麓地域 アッサムニオイザクラ ～優美に咲き誇る名花～

富士北麓地域

甲府

ホワイトパール
(写真上)と
紅富士(写真右)

**山梨の逸品
アッサムニオイザクラ**

山梨県の富士河口湖町を中心として栽培されているアッサムニオイザクラ(和名)は、豊かな香りとピンクの花色が桜を彷彿させる鉢花です。この花はヒマラヤや中国雲南省を原産としており、自然下での開花時期は11月から12月でした。そのため、本来、夏に暑い日本の気象には適さない花でした。しかし、富士北麓地域の夏期冷涼な気象条件下で昭和50年代後半から栽培に取り組み、今では山梨県が生産量日本一を誇る花となりました。

商品開発への取組み

本来11月から12月に開花するアッサムニオイザクラですが、山梨県総合農業技術センターが開花調整技術を確認させたことにより、早期開花させることが可能となりました。現在では、8月から12月までの長期出荷が行われており、とくに9月の敬老の日の贈り物として人気を集めています。

栽培当初は、在来種のピンセアナ1種類しかありませんでしたが、生産者で構成される「アッサムニオイザクラ研究会」が、オリジナル品種の育成や高品質化に取り組み「紅富士」などの色鮮やかな新品種が生まれました。

また、産地ブランド化もされており「富士のおいざくら」として全国50以上の市場へ年間13万鉢(平成27年)を出荷しています。



商品化までの **みちのり**



摘み取り作業



処理後



商品化

富士のにおいざくら関連商品については花科学合同会社の公式通販サイト「HanaBio」にて、販売予定です。

販売開始時期等詳しくはサクラ咲く・プロジェクト
(<https://www.sakurapr.jp/>)

または、花科学合同会社公式通販サイトHanaBio
(<https://www.hanabio.jp/>)をご確認ください。

ニオイザクラの 新たな取り組み

研究会の発足から品種開発や品質向上などに取り組んできましたが、消費者への知名度アップが課題となっていました。そこで、商品開発を行い加工品開発という新たな道を開拓していくことを決めました。

平成28年に、県内で花の加工液の生産販売を行う「花科学合同会社」と連携し、富士のにおいざくらを使ったプリザーブドフラワーの開発を始めました。従来の加工液を用いると、ニオイザクラの花弁が縮んだり、ちぎれる問題が発生したため、富士のにおいざくら専用の加工液が開発されました。それにより、きれいな状態の花弁でプリザーブドフラワーが作れるようになりました。

プリザーブドフラワーとは？

プリザーブドフラワーとは、生花や葉を特殊な加工液に沈め、水分を抜いた加工品のことです。水分を抜くことにより生花のような水の管理が不要になり、長期保存が可能になります。近年ではウェディングブーケなどにも活用されています。

加工液の販売も行われており、一般の方がプリザーブドフラワーを作ることも増えてきています。



「富士のにおいざくら」を用いて作成されたブーケが、コンテストのプリザーブドフラワーブーケ部門で入選しました。